

第4回 国道41号片掛地区 法面崩落対策検討委員会

令和2年7月9日(木)

北陸地方整備局
富山河川国道事務所

1 . 前回委員会の論点整理

2 . 法面恒久対策の基本方針（案）

3 . 工事中の新橋の対応検討

1. 前回委員会の論点整理

1. 前回委員会の論点整理

前回委員会のとりまとめ

議事内容	まとめ	対応方針
崩落要因	複雑に構成する特殊な地質条件、複数回の大雨の影響等の様々な要因が複合的に重なって崩落に至ったと推定	崩落要因を踏まえた法面恒久対策工法を選定する
法面恒久対策	鋼管抑止杭工と法枠鉄筋挿入工との併用で法面を安定させる工法を基本とする	早期に具体的な検討を進める
工事中の新橋への対応	各案の課題を整理し、慎重に検討する	基礎の安定性や施工時の安全性に対する課題・リスクを整理する

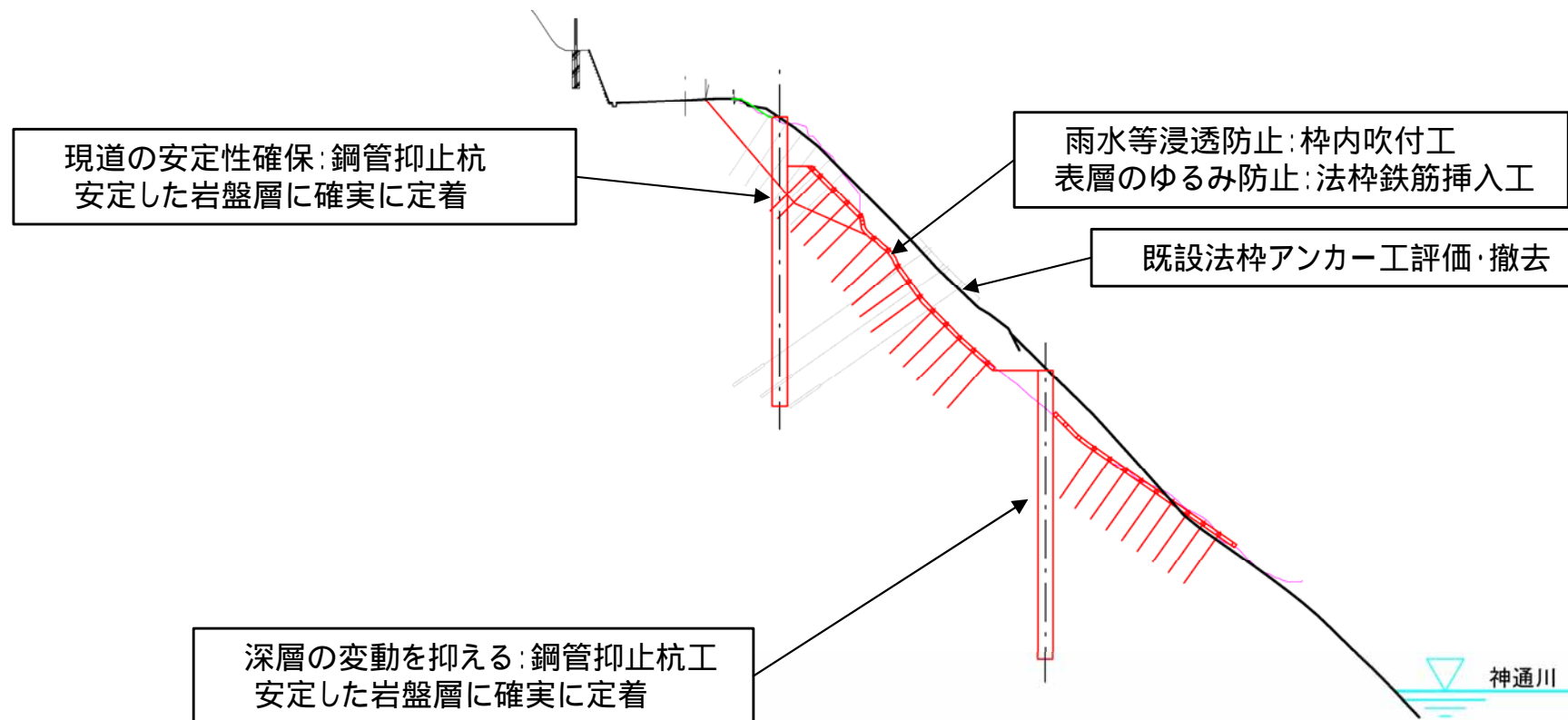
2 . 法面恒久対策の基本方針（案）

2. 法面恒久対策の基本方針(案)

法面恒久対策基本方針(案)

- 法面全体の安定性を確保するため、**鋼管抑止杭工**を採用。
- 表層のゆるみ進行を防止するため、**法枠鉄筋挿入工**を実施。
(法枠内はモルタル吹付にて降雨等の浸透を防ぐ)

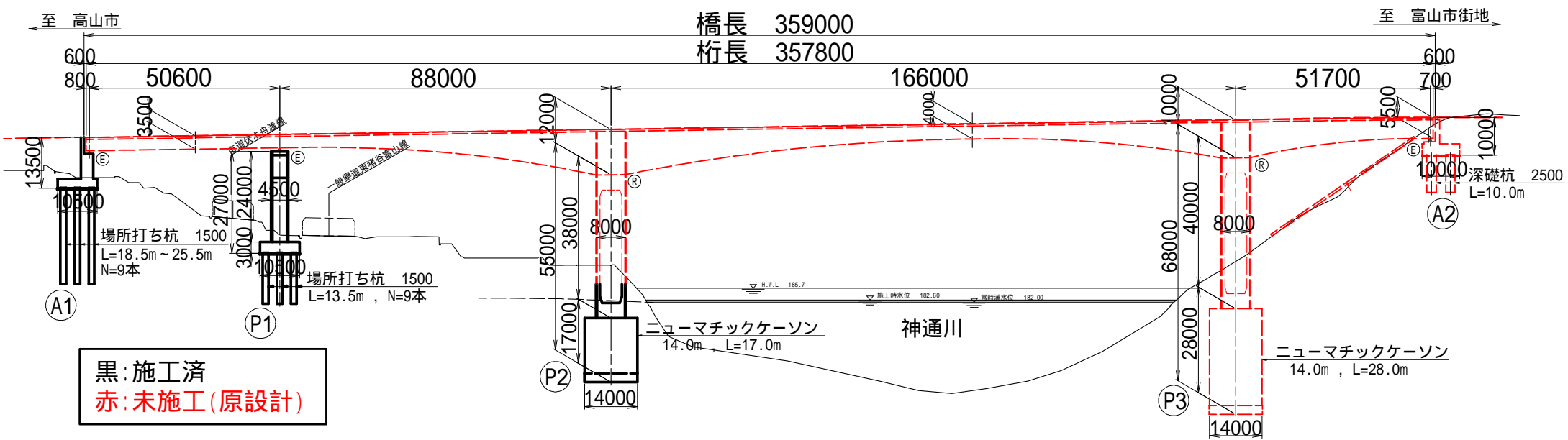
断面図



3. 工事中新橋の対応検討

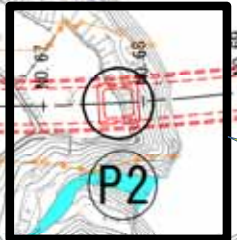
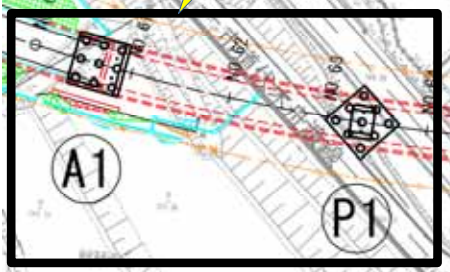
3. 工事中新橋の対応検討

新橋施工再開時の状況

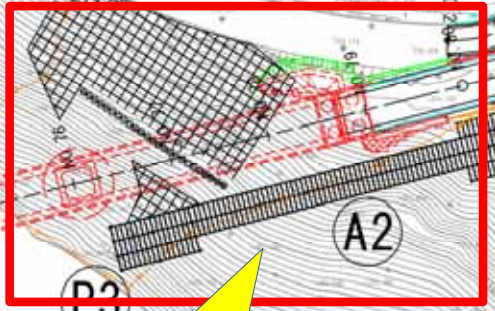


法面恒久対策を施工中もしくは済

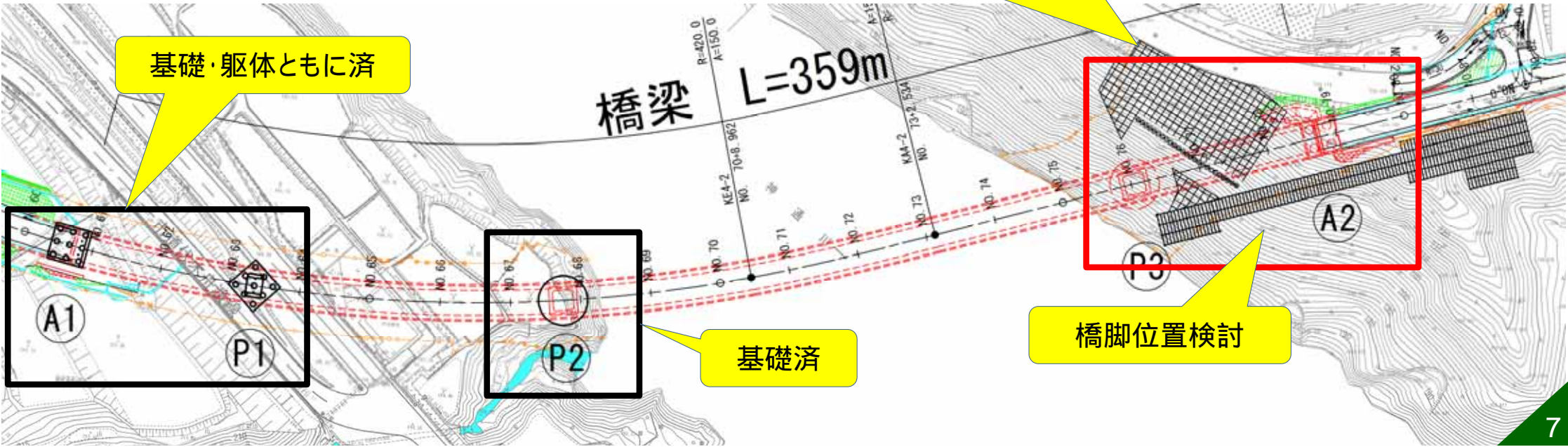
基礎・躯体ともに済



基礎済



橋脚位置検討

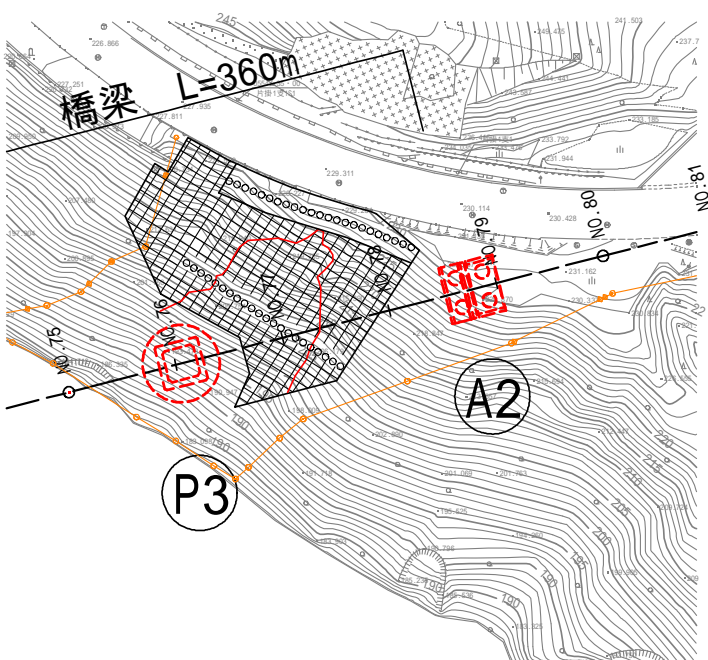


3. 工事中の新橋の対応検討

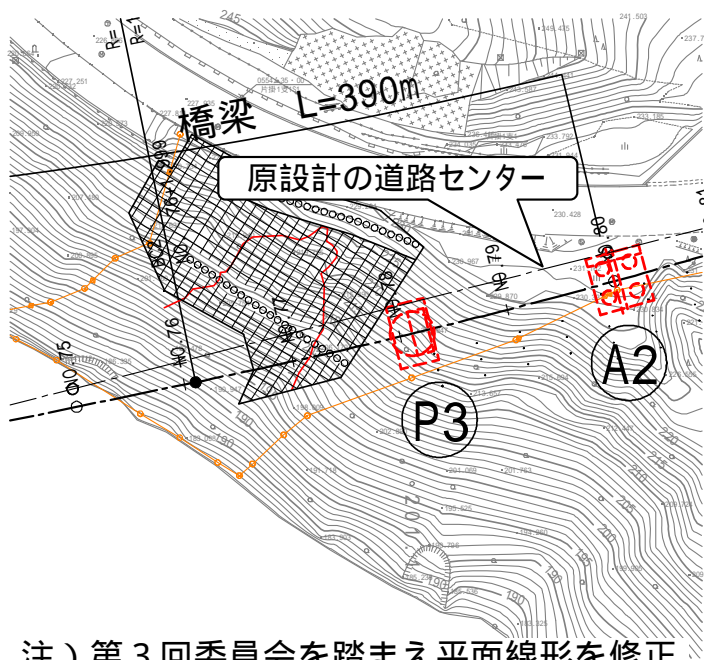
新橋の検討案

- 第 案：P3橋脚及びA2橋台を現在の位置で再構築する（原設計）
- 第 案：崩落した法面箇所を避け、P3橋脚及びA2橋台を見直す
- 第 案：P3橋脚を廃止する

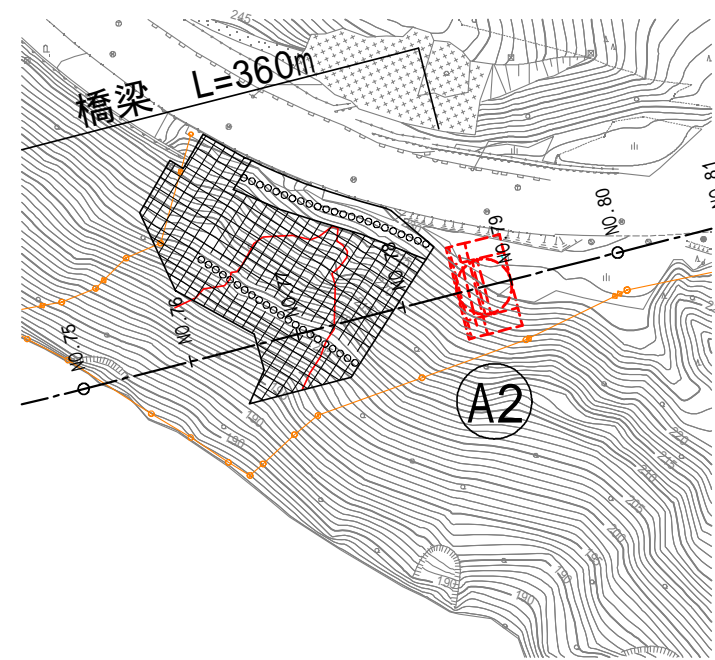
第 案平面図（原設計）



第 案平面図



第 案平面図



注）第3回委員会を踏まえ平面線形を修正

3. 工事中の新橋の対応検討

比較案の概要

案名	第 案	第 案	第 案
橋梁延長	約360m	約390m	約360m
施工時の安全性	・崩落法面での作業が必要	・崩落法面での作業は不要	・崩落法面での作業は不要
経済性 (新橋の総工事費)	-	第 案に比べ高価	第 案に比べ高価
工期	短い	長い	長い
	法面对策との同時施工 不可	可能	可能
構造的性	・強風化帯等の存在により品質確保が困難な可能性あり	・渡河部の支間長は長くなるが実績ある形式が採用可能	・渡河部の支間長は長くなるが実績ある形式が採用可能
社会性 (周辺影響)	・用地買収は不要	・左岸側で用地買収が必要 (一部右岸側で用地買収必要)	・左岸側で用地買収は不要 (一部右岸側で用地買収必要)
施工時・供用後のリスク	・現場施工には課題が多く、工程遅延のリスクあり ・法面に変状が生じた場合の追加対応が困難な可能性あり	・法面に変状が生じた場合等、第 案に比べリスクが少ない	・法面に変状が生じた場合等、第 案に比べリスクが少ない

委員会でのこれまでの審議内容

第1回(4/16) ・被災状況と応急復旧 ・今後の進め方

第2回(5/12) ・被災状況 ・応急復旧の対応(報告)
・恒久対策の検討 ・今後の進め方

第3回(6/18) ・応急復旧の状況 ・崩落要因の推定
・法面恒久対策の比較検討
・工事中の新橋への対応 ・今後の進め方

第4回(本日) ・前回委員会の論点整理
・法面恒久対策の基本方針(案)
・工事中の新橋の対応検討



第5回 ・法面恒久対策と新橋の施工に関する基本方針(案)